

港区立郷土歴史館へ 行ってみよう!

夏休み企画展では、さまざまな情報
が盛り込まれた切絵図を中心に、ま
ちの風景を描いた浮世絵や、遺跡か
ら出土した道具なども展示して、江
戸時代の港区のようすを探ります。
切絵図を読み解きながら、江戸時代の
港区にタイムスリップしてみませんか?

令和6年度
夏休み企画展

発見! 探検!
江戸のまち

おとも
学べる

港区立郷土歴史館

～江戸時代の地図で港区めぐり～

会期：令和6(2024)年7月20日(土)～9月29日(日)

表紙の切絵図は
白金から目黒辺りの地域を
描いたものじゃぞ。
真ん中の道は目黒通りだ。
右の拡大図を見てみよう。
今は何かある場所かな?

①「瑞聖寺」→ 瑞聖寺
②「五島左工門尉」→ 郷土歴史館
③「松平讃岐守」→ 自然教育園

白金絵図 嘉永七(一八五四)年(部分拡大)

豆知識②
讃岐守や主殿頭などは、大名が
朝廷から与えられた官職名。
大名は自分の名前ではなく、こ
の官職名で呼ばれたよ。

コミュニケーション
ルームのタッチパネルで
切絵図や大型の
地図を拡大して
見てみよう!

江戸時代には
コンパクトな切絵図の
ほかに、江戸のまち全体を
描いた大きな地図も
作られたよ。

港区立郷土歴史館 利用のご案内

- 開館時間 午前9時～午後5時(土曜日のみ午後8時まで)
※有料展示室の入館受付は閉館の30分前まで。
- 休館日 毎月第3木曜日/年末年始(12月29日～1月3日)/特別整理期間
- 常設観覧料 大人 300円 小・中・高校生 100円
※特別展・企画展は別料金です。
※区内在住・在学の小・中・高校生、区内在住の65歳以上の方、
区内在住の障害者とその介助者(1名)の観覧料は無料となり
ます(証明ができるものをご持参ください)。

公式ホームページ
minato-rekishi.com

公式SNS
f X Instagram

歴史館の最新情報はこちら→

白金台駅 2番出口 徒歩1分

白金台駅前バス停留所 徒歩1分

都営バス・東急バス「白金台駅前」停留所 徒歩1分

※一般車両の駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。
※障害者用の駐車場がございます。

歴史館ファイル 令和6(2024)年7月10日発行
発行：港区立郷土歴史館

〒108-0071 東京都港区白金台4-6-2 ゆかしの社内
電話：03-6450-2107 FAX：03-6450-2137

歴史館ファイル

vol. 6

発見! 探検! 江戸のまち
江戸時代の地図で港区めぐり

MINATO CITY LOCAL HISTORY MUSEUM

白金絵図 嘉永七(一八五四)年

どの辺りの
地図かな? お寺の
名前をヒントに
考えてみよう!

切絵図の見方・読み方

無色	武家屋敷
赤色	寺・神社
灰色	町屋
緑色	田畑や明地(空地)など
青色	川や海、水路など
黄色	道・橋
□	辻番(道にある交番のようなもの)

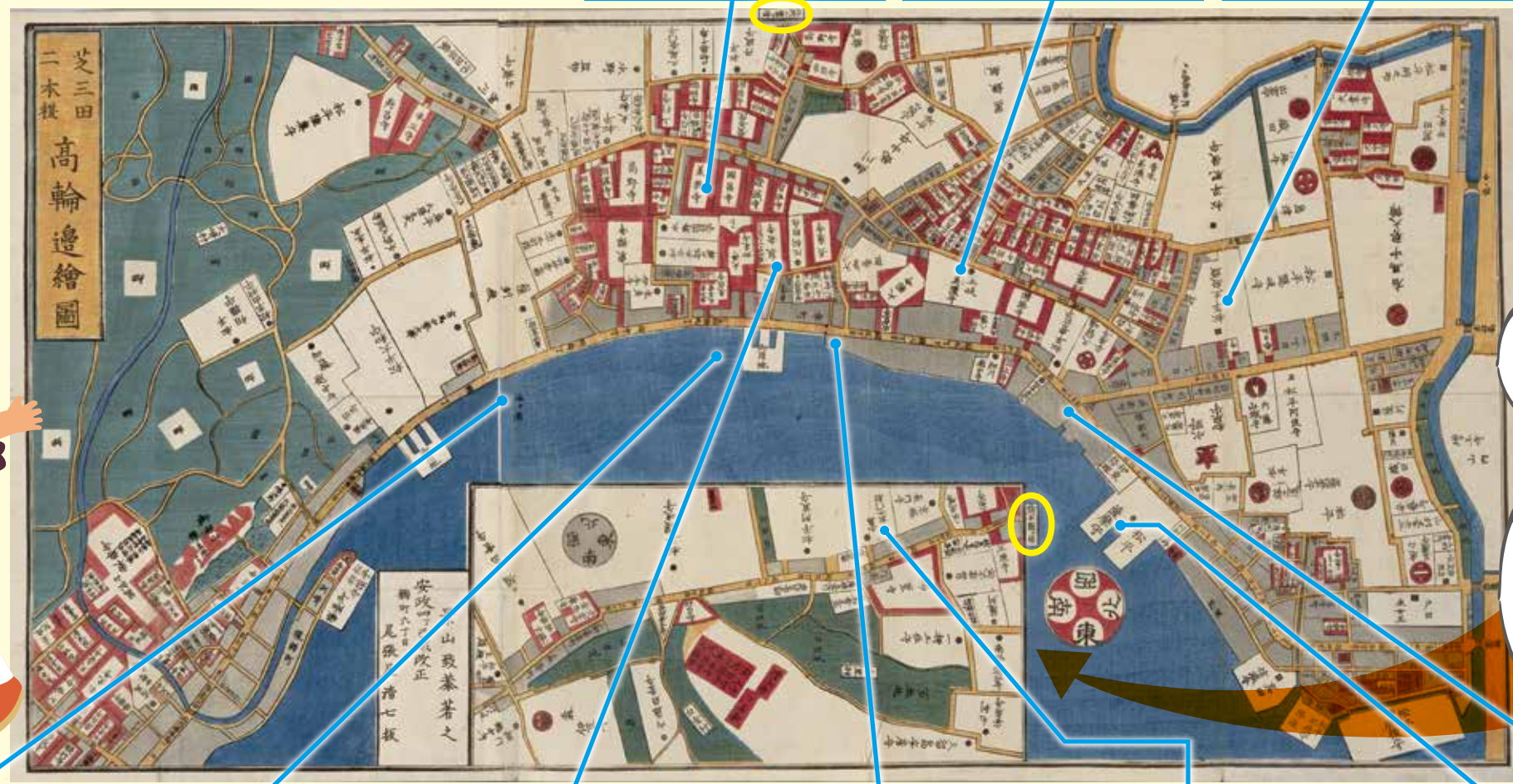
切絵図と呼ばれる
地図だね。小さく折り
たためて、持ち運び
がしやすい。

切絵図に描かれた場所の 現在のようすを見てみよう!

現在の港区は、
新しい駅が開業するなど、
各地域でまちづくりが進められていて、
江戸時代とはだいぶようすが
変わっているよ。でも、江戸時代から
同じ場所にあるお寺や、変わっていない
道もあるぞ。それらを探してみよう!

この切絵図は、
三田から高輪辺りの
江戸時代の
地図だよ。

芝三田二本榎高輪辺絵図 安政4(1857)年



- : 現在
- : 江戸時代



● 高輪台小学校
● 承教寺



● 三田台公園
● 土岐美濃守(上野沼田藩土岐家)下屋敷



● 慶應義塾大学
● 松平主殿頭(肥前島原藩松平家)中屋敷

豆知識①



尾張屋板の切絵図は、江戸の市街地や周辺地域を31枚の地図に分割して描いています。港区はこの中の6枚の地図に描かれているよ。

ここには白金の一部が描かれているよ。海の中の地図ではありません。

この部分を切り取って
で囲ったところを
貼り合わせると、西側にある
郷土歴史館の辺りまで
絵図の範囲が広がるよ。

浮世絵に描かれた 江戸時代の風景を 見てみよう!



東都三十六景 高輪海岸 歌川広重(二代) 文久2(1862)年

切絵図にある大木戸の印「」の上、灰色のところに「車町」と書いてあります。牛車で荷物を運ぶ人たちが集まり、牛町とも呼ばれた場所です。この絵の牛も牛車を引いています。牛町の牛小屋には、一番多い時で600頭の牛が飼われていたそうです。



東都名所年中行事 七月 高輪廿六夜 歌川広重 安政元(1854)年

旧暦の1月と7月の26日に月の出を拝むという風習がありました。この絵はそのようすを描いたものです。月光の中に阿弥陀、観音、勢至の三尊が現れ、それを拝むと幸せになると言われていました。高輪から品川にかけての海辺で盛んに行われました。



切絵図の海沿いの部分にあたり、大木戸から品川の御殿山の辺りまでを描いています。大木戸の石垣は、今は海側しか残っていませんが、中央の手前に陸側の石垣も見えます。海沿いの東海道の両側には茶屋などが建ち並んでいます。

東海道高輪風景 五雲亭貞秀 文久2(1862)年



● 品川駅
● 海



● 高輪ゲートウェイ駅
● 海



● 泉岳寺
● 泉岳寺



● 史跡 高輪大木戸跡
● 大木戸(■のあるところ)



● 港区立郷土歴史館
● 五島左工門尉(肥前福江藩五島家)下屋敷



● 田町駅
● 松平薩摩守(薩摩鹿児島藩島津家)下屋敷



● 札の辻スクエア
● 町屋